

## TEJ2018で「海外教養講座」

### 一般日に展示会場で実施

JATAアウトバウンド促進協議会（JOTC）は、9月20日から23日まで東京・有明の東京ビッグサイトで開催された「ツーリズムEXPOジャパン（TEJ）2018」の一般日である22、23日の両日に「海外教養講座」を実施しました。

同講座は、新たな海外旅行需要の喚起や若者の海外旅行活性化などを目指しています。

22日には、広島経済大学の濱口博行教授が「スポーツは世界へのパスポート」



一般公開日に開催された教養講座の一コマ。大勢の消費者が集まり熱心に耳を傾けていました

をテーマに、サッカービジネスを通じて

訪問したアフリカ大陸や南米での体験・発見・魅力などについて、2回にわたって講演。電通入社後、日本サッカー協会に出向し、2002年の日韓ワールドカップ開催で日本招致委員会事務局国際部長として世界中を駆け巡って誘致活動を行った経験に基づいて、世界規模のスポーツメカイベントが持つ意義などを説明しました。

また、名古屋工業大学の若山滋名誉教授も「ヨーロッパの建築から文化を考える旅」と題して、1回目は「南から北へ・地中海の都市の文化とゲルマンの森の文化」、2回目は「西から東へ・外洋の文化と内陸の文化」をテーマに講演を行っています。若山名誉教授は、建築家・批評家・工学博士・二級建築士と多彩に活動しており、その豊富な知識と経験を語りました。

23日は、駒澤大学の大城道則教授が登壇し、「古代エジプト文化について」「ピラミッドを巡る謎について」と題して講演。初めてエジプトを訪問する人に向けて、美術・宗教・死生観を紹介しながら説明する一方、エジプトを訪問した経験がある人には、最新の学術情報も取り入れて解説しました。

## JOTC・航空会社インタビュー 第3回

### カンタス航空／荻野雅史日本支社長

#### 輸送力強化で需要拡大と市場開発に期待

2017年に日本就航70年を迎えたカンタス航空（QF）。成田・羽田・関西の3空港からオーストラリア各都市への輸送力を強化し、日豪間の双方向交流拡大を目指すQFの荻野雅史日本支社長にお話をうかがいました。

—日本市場での需要拡大に向けた取り組みについて、お聞かせください。

**荻野** 一つ目は、ここ数年における日本からのアウトバウンド拡大を受けた輸送力強化などの取り組みが挙げられるかと思えます。成田／シドニー線を羽田／シドニー線に切り替えたのはじめ、ブリスベン線とメルボルン線の開設に続き、昨年は関空／シドニー線に就航し、一定の供給増を図ることができました。関空からは長期間フライトがなかったため、デスティネーションとしての認知度を高めるために、オーストラリア政府観光局や大使館、関空と連携してプロモーションも強化しました。

二つ目は、日本の旅行会社によるデスティネーションキャンペーンと、オーストラリア外務省と大使館による、日本でのグローバル・プロモーションである「オーストラリアNOW」の展開が2018年に重なったことで、オーストラリア全体をプロモーションしていくうえでの良い追い風となり、うまく認知度向上につながっています。

—QFならではの強みとは。

**荻野** 日本からの出発地点として、成田・羽田・関西の3空



港があり、エコノミークラスの座席数については、成田発が269席、羽田発が270席となっていることから、修学旅行やインセンティブ旅行などの大型団体にもしっかり取り組める点が、一つ目の強みです。また、日本国内ではジェットスター・ジャパンと日本航空による連携を通じたネットワーク、オーストラリア国内ではQFが最大のネットワークを展開しており、国内線と国際線のコンビネーションを活用することも可能です。もう一つ、燃油サーチャージがないことも、流通面では大きなポイントかと思えますので、販売につなげていただければと思います。

—旅行会社の皆さんに強調されたいことは。

**荻野** 12月から関空／シドニー線を週4便に増便します。関空／シドニー線は2年目に入りましたが、ぜひ販売を強化していただきたい。地方市場の開発は、アウトバウンド全体の拡大にも資するものですから、積極的な展開を期待しています。

#### カンタス航空（予約センター）

TEL0120-700-726

※インタビューの全文はJOTCのホームページ（<http://www.jata-net.or.jp/outbound/>）でお読みいただけます